

## まえがき

### 認識は肝心！

現代では、SNSの普及に伴い、多くの学習方法の存在が確認できるようになった。同時に、容易に情報や知識を入手しやすくなった。

ゆえに、日々学習する側にとって、能率的に行え、情報収集するのに便利な時代となったと言っても過言ではない。反面、情報過多になりやすくなってしまい、どれが大切なことなのかがわかりにくい時代にもなった。

学習の情報は、次のように大別できる。公式、知識そして計算など物理的範囲のものと、捉え方や考え方など認識的範囲のものだ。

学習という面において考えると、後者の情報が少ないように思えてならない。解き方の情報は数多く存在するが、目の前の問題に対しての認識のあり方やどういう訓練すれば認識力を持てるかなどの情報は存在していない。

知識はインプットするだけでは、発展させることはできない。また、ただ単にアウトプットするだけでも発展は不可能だ。使い方を深く学び、創造の感覚を身につけることで、今ある知識を最大限まで発展させることができる。

情報過多の現代では、そういった精神的な学びが必要だと考えている。

そういった発展の一步を踏み出させるのは、認識力だ。ある物事に対して、どういう捉え方をすれば発展させることができるのかを考えることが認識力である。それを使用しながらの学習は、盤石な基本を作りあげる。また、磨

きあげると、さらなる学力向上だけでなく、あらゆる面での応用力や発想の転換、そして創造と無限に脳力を伸ばすことができる。

ただ、そういった認識力は一朝一夕で決して身につくことはない。なぜなら、普段の生活によって身につけてしまった考え方が、新しい認識を阻害する可能性があるからだ。何事も1日で矯正することは難しい。それは、学習も同様である。練習があることは、そういう理由からである。

そして、認識力を身につけさせるためには、今持っている考え方を尊重しつつ、否定しなければならない。なぜなら、今までの考え方を否定されるのは、誰しもが好まないはずだからだ。

もし、真っ向から否定するならば、どんなに良いアドバイスも受け入れづらくなってしまおう。壁ができてしまうのだ。尊重と否定の相反するものを抱えながら、新しい考え方を調和させていくことが大切だ。

では、認識力を身につけるための具体的なステップをお伝えしていこう。

- ① 認識
- ② 実践
- ③ 結果

これら3ステップを軸にして、解説を交えながら認識力を構築していこう。また、認識力がどのような影響を与えるのかも確認してほしい。

さらに、第5章に関しては、自身の成功と失敗の章を設けた。理論と自身の経験をうまく吸収してくれれば幸いだ。

この書を通じて、一から考えを構築していきたい方は、認識、構築、応用、

創造の順を意識して学んでいってほしい。吸収するためには、意識の持っていく方が必須だ。必ず意識を持って、学習することをおすすめする。

また、考えのみを吸収したい方は、大切だと感じる部分にマーカーを引くなり、付箋を貼るなりして、意識して吸収してほしい。本書の使い方、読み方は自由なので、お任せする。

また、現代では経済格差に随伴して、教育格差が生じてしまっているように見受けられる。私は、その格差を埋めていきたいと考え、学習に関する理論や経験を執筆させていただいた。

この書は、基礎から応用基礎までの学習の進め方を記述した。学習とは何か。学習はなぜ必要なのか。どう進めるべきなのかなど、普段から学習に対して疑問を抱いている方にふさわしい書物となっていることだろう。

この書は、学習の入門書となっているが、入門時こそどう物事を認識するかであらゆることが変わってくる。入門書だといって、侮ってはいけない。さらに言えば、学習に熟達された方が、原点回帰として読んでいただきたい書でもあるのだ。

そして、今後、どんなに経済格差が広がろうとも、その格差を埋めることが可能となるヒントを載せているので、永年にわたって活用できる書となっている。

変則的かつ急進的な現代ゆえに、将来を見据えることは決して容易なことではない。急進的に科学技術が発展していった先は、どのような未来が待っているのか。誰もそれを知る術はない。

しかし、どんな未来が待っていようとも、我々、人間の考え方は必要になるはずだ。コンピューターは知識を吸収し、計算することだけに特化していると私は考えている。

人間が持つ不合理な思考や感情は、コンピューターにとって、理解しがたいものである。その理解しがたいものこそが、社会や文化など発展させる原動力になる。

その理解しがたいものとは、愛、思考、感情など精神性があるものを指すのではないだろうか。だとすれば、精神性である認識力を高めるとことは、AIが台頭するこの時代に生き抜く唯一の術であるとも言えるかもしれない。

今こそ、学習において必要な力は、暗記力や応用力ではなく認識力だ。